

## 基準1 環境・体制整備

記入者 JC蔵本 管理者 篠原里奈

### 1-1 利用定員が発達障害の指導訓練室等スペースの関係で適切であるか

(1) 1-1の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由 (満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載)

基本的にはスペースを確保し活動は行なっているが、利用児が中高生と体が大きいお子さんも多く活動内容や人数によっては「狭い」と感じることもある。

### 1-2 発達障害に関して専門的知見を持った職員の配置及び配置数は適切であるか

(1) 1-2 の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由 (満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載)

職員一人一人の経験年数やスキルは今後も研鑽を積む必要があると感じている。

### 1-3 事業所の設備等において、発達障害への配慮が適切になされているか

(1) 1-3 の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由 (満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載)

視覚支援や構造化は行なった上で特性に応じて配慮を行なっている。

### 1-4 発達障害に配慮した環境調整が行なわれているか

(1) 1-4 の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由 (満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載)

個別やクールダウンが必要なお子さんが複数居る場合は環境調整が出来ない場合もあるが、基本的にはその場で出来る環境調整は出来る限り行なっている。

【基準1の自己評価と改善・向上方法(将来計画)】

## 基準2 業務改善

2-1 業務改善を図るためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか

(1) 2-1の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由 (満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載)

年に数回と回数は限られているが実施はしている。

2-2 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか

(1) 2-2の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由 (満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載)

保護者さんからのご意見や要望は聞き、出来るだけ全体の活動に汎化するよう努めている。

2-3「厚労省ガイドライン」による自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか

(1) 2-3の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由 (満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載)

平成29年度より、ホームページ上での公開を行なう。

2-4 職員の資質の向上を行うために、発達障害に関する研修の機会を確保しているか

(1) 2-4の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由 (満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載)

研修の機会は設けているが全員が同じ時間に参加するのは難しいため、後に伝達する形で実施している。

【基準2の自己評価と改善・向上方法(将来計画)】

## 基準3 適切な支援の提供

3-1 発達障害のアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか

(1) 3-1の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

事業所でのアセスメントは全員実施している。医療機関を受診しているお子さんは連携を行ない保護者の同意を得た上で心理検査の結果を頂き、活動や計画に反映できるよう努めている。

3-2 子どもの状態を把握するために、発達障害のアセスメントツールなどを使用しているか

(1) 3-2 の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

事業所内では簡易に実施できるアセスメントツールを利用している。今後は簡易版ではないものも実施したいと考えている。

3-3 発達障害の活動プログラムの立案をチームで行っているか

(1) 3-3 の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

なるべく職員全員の意見が反映されるように努めている。

3-4 発達障害の活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか

(1) 3-4 の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

時期によってお子さんの困り感も違っているため、子どもの困り感を聞き取り、活動内容に汎化させている。

3-5 平日、休日、長期休暇に応じて、発達障害の課題をきめ細やかに設定して支援しているか

(1) 3-5 の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

平日、休日、長期休暇のみならず、個に応じた支援と関わりが出来るよう活動を行なっている。

3-6 子どもの発達障害の状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか

(1) 3-6 の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

お子さんの状況やニーズから判断し、その時にベストだと思われるサービスを計画、実施している。

3-7 発達障害の支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか

(1) 3-7の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

打ち合わせは実施しているが、話し合いに時間を長く割けない現状もあり、効率の良い運営の仕方については今後も検討が必要だと感じている。

3-8 発達障害の支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをするなど、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点などの情報を共有しているか、又はその工夫がなされているか

(1) 3-8 の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

退勤時間が遅いため終了時に振り返りを行なうことは難しい現状。簡単な情報共有程度になりやすいため効率の良い運営の仕方について検討が必要だと感じている。

3-9 日々の発達障害児の支援に関して正しく記録をとる事を徹底し、支援の検証・改善につなげて

(1) 3-9 の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

一度に来所されている子さんの人数が多い時は担当制にし、担当した職員が観察・記録を取り、その後の支援に汎化するよう努めている。

3-10 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービスの計画の見直しの必要性を判断しているか

(1) 3-10 の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

計画内容については保護者さんに家庭の様子や学校での困り感の聴取を行ない計画している。

3-11 「厚労省ガイドライン」の総則の「基本活動」(1(3)②ア・イ・ウ・エ・)を複数組み合わせる支援を行っているか

(1) 3-11 の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

基本活動で挙げられている内容をまんべんなく実施できるよう活動内容を立案している。

【基準3の自己評価と改善・向上方法(将来計画)】

## 基準4 関係機関や保護者との連携

4-1 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの発達障害の状況に精通した最もふさわしい者が参画できるようになっているか

(1) 4-1の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

サービス担当者会議には必ず、児童発達支援管理責任者が出席している。

4-2 保護者が許容している場合において、学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか

(1) 4-2の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

連携の取り方は学校によって様々ではあるが適宜連携を行ない同じ方向性で支援が進むよう役割分担を行なっている。

4-3 医療的対応が必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか

(1) 4-3の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

主治医と連携を取っているケースは少数だが、必要な場合は連携が取れるような体制は整えている。

4-4 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか

(1) 4-4の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

利用児童が中高生であるため幼児期に関わっていた機関との連携はない。

4-5 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所へ移行する場合、それまでの発達障害の支援内容等の情報を提供するなどしているか、又はその態勢ができていないか

(1) 4-5の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

必要な場合は保護者の同意を得た上で、書類などを作成し、情報共有を行なっている。

4-6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか

(1) 4-6の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

利用児童が中高生であるため児童発達支援センターとの連携はないが、主催の研修会などがある場合は参加に努めている。

4-7 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会を設けることができるか

(1) 4-7の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

H29年度は障害のない同年代との関わりを持つ接点が無かったため、来年度以降の活動では計画している。

4-8（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか

(1) 4-8 の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

H29年度は参加した回数が少なかったため、来年度以降は参加回数を増やしたいと考えている。

4-9 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか

(1) 4-9 の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

活動送迎時またはメールや電話にて情報共有と共通理解が持てるよう努めている。

4-10 保護者の発達障害への対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング(P34・P42・P47参照)等の支援を行なっているか

(1) 4-10 の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

助言やアドバイスは行なっているが実施ケースは少ないのが現状である。

【基準4の自己評価と改善・向上方法(将来計画)】

## 基準6 非常時等の対応

6-1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか

(1) 6-1の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

保護者さんへは簡単にしかお伝えできていないのが現状である。

6-2 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか

(1) 6-2 の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

年に複数回、お子さん方を含め実施したり、職員のみで研修など実施している。

6-3 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか

(1) 6-3 の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

虐待ヒヤリハットとなる事例は、早い段階で情報共有を行ない、必要があれば関連機関と連携を取る体制は整えている。

6-4 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか

(1) 6-4 の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

必要があるケースは現在いないが、別紙の同意書を作成しており、理解を得る体制は整えている。

6-5 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示所に基づく対応がされているか

(1) 6-5 の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

アレルギー症状が重度のお子さんは現在いないが、調理や食べ物を扱う場合は考慮し活動を提供している。

6-6 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか

(1) 6-6 の自己判定

十分満たしている 満たしている ほぼ満たしている 満たしていない

(2) その理由（満たしている場合はその理由を、満たしていない場合はその課題を記載）

ヒヤリハット事例を多く出し事故を未然に防げるよう努めている。

【基準6の自己評価と改善・向上方法(将来計画)】